

特殊神事

立春祭

立春の日に神馬藻なりのそを奉献する慣わしがあります。

幟のぼりまわし

毎年五月五日、氏子男子の初節句を祝い、中学生たちによって行われます。

天日槍命が瀬戸を切り開いて引揚げる道中の姿を偲ぶ催しです。

御年花祭おはなびらまつり

新嘗祭の前日に木製の火おこしで浄火をおこし、直径十二cm程の薄い円餅をつくり、当日神前に供した後、参拝者にまき与えます。この餅を御年花といい種々の霊験があるといわれています。



出石神社社殿



岩引きの図



禁足地

出石神社由緒略記



出石神社社務所

〒六八〇二〇四

兵庫県豊岡市出石町宮内九九

電話 〇七九六(五二)二四四〇

山陰本線豊岡駅下車、出石・但東方面行バスで約二十五分、鳥居下車、東へ徒歩十分



御祭神

伊豆志八前大神

あめのひばこのみこと
天日槍命

天日槍命が新羅の国よりお持ちになりました八種の神宝を出石八前大神として、また天日槍命の大御霊を御祭神として斎祀しています。

天日槍命は、『古事記』、『日本書紀』ともに新羅国王の王子で、日本に渡来されたとし、その事蹟は記紀のほか『播磨国風土記』、『筑前国風土記』逸文等にうかがうことができます。

八種の神宝とは、『古事記』には珠二貫・振浪比礼・切浪比礼・振風比礼・
かぜきるひれ
切風比礼・奥津鏡・辺津鏡の八種としています。

たじまのりのみこと
田道間守命（菓祖）、じんぐうこうごう
神功皇后（仲哀天皇皇后）は天日槍命のご子孫です。

神社の創立年代はあきらかではありませんが、垂仁紀三年に神宝を「但馬国に蔵めて、常に神の物とす」と記し、社伝の『一宮縁起』には、谿羽道主命と多遅麻比那良岐と相謀り、天日槍命を祀ったと記しています。

但馬の国一宮として当地では別名を一宮さんと呼び親しまれています。

天日槍命は泥海であつた但馬を円山川河口の瀬戸・津居山の間の岩山を開いて濁流を日本海に流し、現在の豊沃な但馬平野を現出され、円山川の治水に、また殖

産興業に功績を遺された神として尊崇を集めています。

現在の社殿は大正三年に再建され、透塀で囲まれた三間社流造の本殿、その前面に切妻造りの幣殿と祝詞殿があり、拝殿は舞殿形式で入母屋造り平入りで葺戸をつり、正面に拝殿の屋根と独立した平唐破風出桁の向拝は他に類のない珍しい建築です。神門は丹塗の八脚門で、数多くの墓股を飾り、左右に連なる塀も丹塗りです。

境内東北隅に約三百坪の禁足地があり、老樹がうつそうと生い茂り、入れば崇りがあるといわれています。